認知症サポート医の資格をとりました

みどり病院　院長　松井　一樹

1：はじめに

2021年11月20日に厚生労働省の定める『認知症サポート医養成研修』を修了しました。法人としては、こがねだ診療所　森　逸治先生に次いで二人目です。

もともとは、法人の地域まるごと（地域包括ケア）委員会で、3年前に岩原介護部長より、「地域とともに歩むなら、みどり病院で、認知症サポート医を誰かとったほうがいいのではないか？」との提案から始まりました。若い医師に委嘱しようと考えましたが、医師会の推薦が必要になります。（当法人としては、岩井先生、森先生、松井の3名が医師会員です。）2020年度は、申し込みをしましたが落選し、1年遅れて受講・修了することができました。

2：認知症サポート医の役割

認知症サポート医の受講料は岐阜県から出していただいています。ということは、みなさまの税金が使われているわけですので、地域への恩返しが必要なのかと思います。

(1) 背景

認知症高齢者2012年462万人（15・0％）2025年675万人（19・0％）2030年744万人（20・8％）と増加が予測される中で、日本における認知症施策は2012年の5か年計画：オレンジプラン、2015年の新オレンジプランへと総合戦略が開始、推進されています。その中で、中心となる7つの柱『①認知症への理解を深める為の普及・啓発の推進②認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供③若年性認知症施策の強化④認知症の人の介護者への支援⑤認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進⑥認知症の予防法、診断法、治療法、リハビリテーション、介護モデルなどの研究開発及びその成果の普及の推進⑦認知症の人やその家族の視点の重視』が提案されました。みなさんが取得されている『認知症サポーター』等もこの戦略の一環です。

(2) 認知症サポート医の役割

認知症サポート医もこの7つの柱を実践する医師として期待されています。特に、地域の方々にとっては、まずは、7つの柱の②を期待されるのではないでしょうか？

ご近所さんに、「あの人、認知症かな？」と思われた時には、おそらく地域包括支援センターに相談、センターの方は、様子伺いに訪問されますが、本人の拒否もあり、医療機関を受診してもらうまでいかないこともあります。

こういった場合を含め、認知症にかかわる事象が地域に発生した場合、行政は、地域包括支援センターに『初期集中支援チーム』を結成（期限は半年、ここにサポート医も加わります）を指示、チームは、適切な医療・介護等の提供を行っていく役割が求められています。ところが、みどり病院地域の認知症サポート医は、河村病院さん、社団岐阜病院さんにいらっしゃいますが、この地域まで足を延ばすことは実際には難しいのではないかと思います。そこで、私の出番！　となるのです。包括の方や多職種、地域支援推進員の方の結成チームの一員として、医療・介護等へ架け橋を行います。あるいは、チーム結成の手前で、私の役割として、医療機関への受診に結び付ける、あるいは、かかりつけ医の先生と相談し、今後について方針を確立していくことが望まれていると考えています。

すでに、東部包括の方と懇談し、ご自宅へご一緒に訪問していく等の取り組みをお約束しています。

3：今後の計画

(1) 個人的な思い

認知症サポート医として、7つの柱を実践することは、荷が重いと感じています。特に、7つの柱の①については、学習会講師をお願いされることがありますが、おそらく、まだ（今後も）体系的にお話しできる知識や体験が豊富ではありません。（もともと小児科医で、内科の勉強はみなさんからのアドバイスをいただきながらであり、院長として医療活動上外せない、私でも何とかなるものを担っての現在地です。自称『ゆりかごと、墓場まで』を担当する、Dr．Station（人生の始発駅と終着駅近辺担当なのです。）

なので、医局に、もっと勉強し、経験している、学習講師にふさわしい医師たちがいますので、ぜひ、ご依頼をお願いします。

(2) 今後の計画について

みどり病院地域の65歳以上の高齢化率はいよいよ40％越えとなっています。今までも、お困りごとがあれば、『よろず相談』が承って、今後の道筋をつけています。しかし、道筋をつけた後は、様々な外部の機関にお願いし、そこで手を放してしまうことも多々あります。今後は、今よりは多く、地域包括支援センターと協力できることもあり、より長いお付き合いができることも増えるのではないかと思います。

2024年度、新病院への移転が予定されています。地域に開かれた優しい病院を目指し、お困りごとあれば、まずは、友の会でも病院でもご相談ください。

そして、「認知症の方が、住み慣れた地域の良い環境で自分らしく暮らし続けることができるようにする」ために、様々な課題に取り組んでいきたいと思います。

4：今後も学びを大切に

最後に、認知症を勉強するなかで、「作曲家のモーリス・ラベルは、大脳基底核変性症を患い、作曲のイメージは湧いてもうまく曲を書くことができなかった。そのため、同じ旋律を繰り返し使って見事な曲を作り上げました。それが有名なボレロという曲です。」との記載がとても印象的でした。

みどり病院で大腸CT検査受けられます！

大腸CT検査とは？

大腸CT検査とは、おしりから炭酸ガスを入れ、大腸を膨らませてCTを撮影し、ポリープや大腸がんなどの病変を内視鏡で発見するのと同様な画像を作ることが出来る検査です。

大腸CT検査のメリット

①診断能に優れており、生検ができない他は内視鏡とほぼ同等の診断能があります。

②内視鏡検査のように侵襲性が強くないため、痛みが少なく済みます。炭酸ガスを注入するチューブもとても細く、内視鏡検査が苦手な方、内視鏡検査を途中で断念した方におすすめです。

③注腸検査のようにバリウムを注入することもないので、汚れたりすることもありませんし、注入するのは炭酸ガスのみなので検査後トイレへいく必要もありません。

④検査時間が10分～15分と短時間で済みます。

⑤下剤を飲む量も内視鏡検査に比べ少なく済みます。内視鏡のように午前中に来院していただいて時間をかけて下剤処置を行うこともなく、自宅にて検査食と下剤を服用していただければ検査をすることができます。

大腸CT検査のデメリット

①CTにて病変を発見したとしても大腸内視鏡のようにその場で細胞の採取（生検）はできないため、病変が良性か悪性か調べるためには、追加で内視鏡検査を受ける必要があります。また、ポリープの色、弾力、出血などの情報は得られません。

②炭酸ガスを注入するため、腹満感が発生します。ただし、この炭酸ガスは空気よりも腸への吸収が早いため、腹満感は楽になりやすいです。

③X線を使用するため、少ない量ですが被曝を伴います。

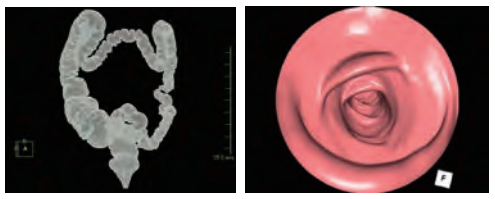
④COPD（慢性閉塞性肺疾患）、ポリープ切除術後6日間以内、腸炎などの炎症性病変の既往又は治療中の方、右の大腸を切除している、ペースメーカーがある、透析中の方、妊娠中の方、妊娠の可能性のある方などは大腸CT検査をすることができません。詳しくはみどり病院までおたずねください。

大腸CT予約について

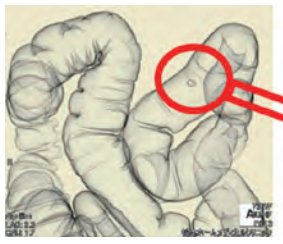
月曜～金曜の午前11：00、11：30と2枠で行っています。保険診療となり、事前に医師の診察を受けたうえで検査予約をいたしますので、ご希望があれば一度みどり病院受付へご相談ください。

（みどり病院　放射線科科長　納土）

大腸 CT 検査で撮れる画像



ポリープなどの隆起性病変がある場合の画像



ポリープ像

※大腸CTについての問い合わせ等は、
みどり病院までお問い合わせください。
みどり病院　電話058-241-0681

看護部紹介

みどり病院 部署紹介コーナー

新しい白衣です

みどり病院
看護部長　渡邉　博美

みなさん、こんにちは。私たち看護部の紹介をします。

岐阜勤労者医療協会法人全体で約120名の看護師が働いています。

法人とは、みどり病院だけでなく、華陽・こがねだ・すこやかの3つの診療所や透析センター、訪問看護、デイサービス等介護現場にも看護師がいます。

看護部の目標は以下の3つです。

①私たちは患者様の生活や労働に目を向け、一人ひとりを大切にした看護をめざします。

②私たちは地域住民・健康友の会との連携を密にし、看護活動を通じて地域に貢献します。

③私たちは常に学ぶ姿勢を忘れず、安全で信頼される看護をめざします。

「一人ひとりを大切にした看護」とは、患者様の人権と生命の尊厳を守ることを基盤に、生きようとする生命活動や生活史、社会的背景を総合的にとらえ、患者様の理解と納得のもと健康の状況に即した看護を実践することです。

看護師は様々な場面で、何が患者様ご本人にとって一番良い事なのかを常に考えています。

患者様の立場に立ち、患者様の要求から出発し、患者様と共にたたかう、これが全国の民医連で働く看護師が一番大事にしている3つの視点です。病気の症状だけでなく、患者様が今までどんな生活をしてきた方なのか、何を望み、何を求めているのか。それを実現するために何ができるのか、「たたかう」にはそんな思いが込められています。患者様と一緒に考え決してあきらめない、患者様の想いに寄り添った看護をしていきたいと思っております。

さて、8月1日よりユニフォームを一新しました。以前のえんじ色のユニフォームは前看護部長の発案で10年前の当時は珍しかったスクラブタイプを導入。この時は患者様から賛否両論の様々なご意見をいただきました。さあ、今度のユニフォームはいかがでしょう。

「この地域に民医連があってよかった。」と言っていただけるよう地域の皆さんと共に、いつでも、どこでも、誰もが安心できる、無差別平等の医療と福祉の実現をめざしていきます。

これからもよろしくお願いいたします。